

徳島県西部地域における活動へのアドバイス

徳島県推薦都市農村交流アドバイザー（分野：観光交流）

福永 晃大

（一般社団法人そらの郷 観光地域づくりマネージャー）

1 取組概要

～千年のかくれんぼ～分け入るごとに時は遡り

サスティナブルな暮らしの中に来訪者を招き入れて地域の農業者との交流により感動を共有するといったテーマ性のある観光に価値を見いだし、新しい観光資源としてブランディングを図る。

2 取組前の地域の状況

一般社団法人そらの郷は、徳島県西部の美馬市、三好市、東みよし町、つるぎ町の2市2町の「にしあ波エリア」において、広域・官民連携で持続可能な体験交流観光に取り組んでいる。地域の状況は次のとおり。

①急速な少子高齢化、人口減少による担い手不足

- ・傾斜地伝統農法の技術継承者不足
- ・山間部の植物多様性の保全が困難
- ・集落のローカルコミュニティ保全が困難

②将来の不確実性からくる、住民のネガティブ思考

- ・自身の子どもが、田舎を離れ、都会で成功することを願う
- ・止められない人口減少と産業衰退
- ・豊かな暮らし、地域の魅力創出が進まない

③秘境といわれる所以、交通の不便

- ・山々と渓谷で分断された集落形成のため、大型バスの侵入が困難

④動植物多様な地域であるため、動物が多い

- ・イノシシ、シカ、猿などに農地が年中被害を受けている
- 受入れ中の生徒に悪さをすることは無いが、道中姿を現すことはある

3 具体的な取組内容

体験型教育旅行では、受入農家の下で農作業体験や収穫物の共同調理などをメニューとした農泊体験を商品化。都市部の中学校・高校を対象に受入れを行うため、教育旅行の目的に合わせたプログラム開発（事前学習資料の作成、体験内容の教育的意義の明確化、振り返り学習の支援等）を実施し、安全管理体制を含めた学習環境の整備を行う。

インバウンド誘致は、農山村での畑の散策や農家の庭先での餅つきなどを交流コンテンツに組み込んだ商品開発に取り組む。

4 地域の変化

観光客数増による交流人口の増加、観光事業者・農業者の所得向上、新たな雇用の創出等により地域活性化に貢献。



伝統的な農作業ツチアゲ体験



野菜の収穫体験（教育旅行）



地元農家との交流（餅つき）

5 取組の効果

体験型教育旅行の受入泊数は、平成 20 年度の 977 人泊（4 校）から令和 5 年度は 7,215 人泊（35 校）へと増加。

「桃源郷」とも称される農山村の風景や文化、地域の農業者等のホスピタリティーが高く評価され、平成 25 年に 4 本のナショナルジオグラフィックツアーから始まったインバウンドツアーの受入数は、令和 6 年には 35 本までに増加。

6 「一般社団法人そらの郷」の概要

農山村の暮らし体験や受入家庭と交流する体験型教育旅行の受入組織「そらの郷山里物語協議会」を、平成 23 年に「一般社団法人そらの郷」として法人化。

令和 3 年度に重点支援 DMO に選定され、にし阿波観光圏の観光地域づくりプラットフォームとして、官民連携による農山村の観光地域づくりに取り組む。

7 今後の取組地域の目指す方向

文化や歴史が違う地方の地域で教育効果の高いプログラムを開発するとともに、その実現に向けて地域関係者等との連携を強化する。

訪日教育旅行や企業・大学研修等を誘致していきたい。

住んでよし訪れてよしの観光地域づくりを推進し、世界に通じる競争力の高い観光地域を目指す。

8 アドバイザー自身の PR

地域資源の課題を価値に転換する戦略的な観光地域づくり、教育旅行受入に合わせたプログラム開発などについて、実践に基づき具体的なノウハウを提供し支援する。